

とうきょうすくわくプログラム 活動報告書

テーマ 立体

園名	もりのおがわ保育園
期間	12月3回、1月2回、2月2回、 3月3回)/令和6年12月から令和 7年4月まで
実践者	新里早苗 (主任)
対象年齢人数	4歳～5歳 9名

テーマを設定する

- ① 積み木を組み立てる中で崩れる積み木をどのように組み合わせると形が作られるか
- ② 協力してひとつのものを作り上げるには、どのようなコミュニケーションが必要になるか

環境をデザインする

○準備物

カプラ・カカポ ビデオ・カメラ

探求活動を実践する 影

○活動内容

カカポ、カプラ、好きな方で遊んでよいことを伝える。ただし、カカポは部品が少ないので、一つのを皆で作ることが望ましいと話した。

◇子どもの様子

子どもたちが話し合いを実施、船を作ることになった。しかし、それぞれが作りたいものがあり、なかなか形にならない。リーダーの男児が危機感を強めた。そこで、完成図をホワイトボードに貼り、設計図を描き始めた。目からの情報により子どもらの中でイメージができあがり、そこから船を作り始め、完成にたどり着く

カプラにきた2人は、カカポをやりたいが、早々にあきらめる。初めは、仕方なしにカプラをしていたが、形として出来上がる様子が楽しくなり、熱中し始める。途中、崩れてしまい、と泣くこともあった。カカポで遊びたいイライラが、見え隠れしていた。



振り返り・気づき

カカポはパーツが少なく、遊び込むには工夫が必要となった。遊び込むには、コミュニケーションが必要で、リーダーは、チームをまとめるにはどうしたらいいかを試行錯誤していた。当初の目的は、どのようにカカポを組み立てるか、遊び込めるかであったが、後半はどのようにチームをまとめるか、コミュニケーションをはかるかに焦点をあてた。形が作られ始めると、こどもそれぞれが、イメージしやすくなったようで、急速に船が完成へと導かれた。

探求遊びには、準備と子どもの姿の予想が大事である。今回、カカポを出す際に、導入したことで、初期のトラブルは回避できていた。

反省・次回への課題

一時保育室で実施したことで、作品を保存しておけるので、「続き」で遊ぶことが出来ていた。次回は、様々なブロックを出して町づくりを楽しみたい。にじ、そら組の少人数での探求がよい。